

3-17 油壺における地殻変動連続観測（1978年～1992年）

Continuous observation of crustal deformation at Aburatsubo
(1978-1992)

東京大学地震研究所

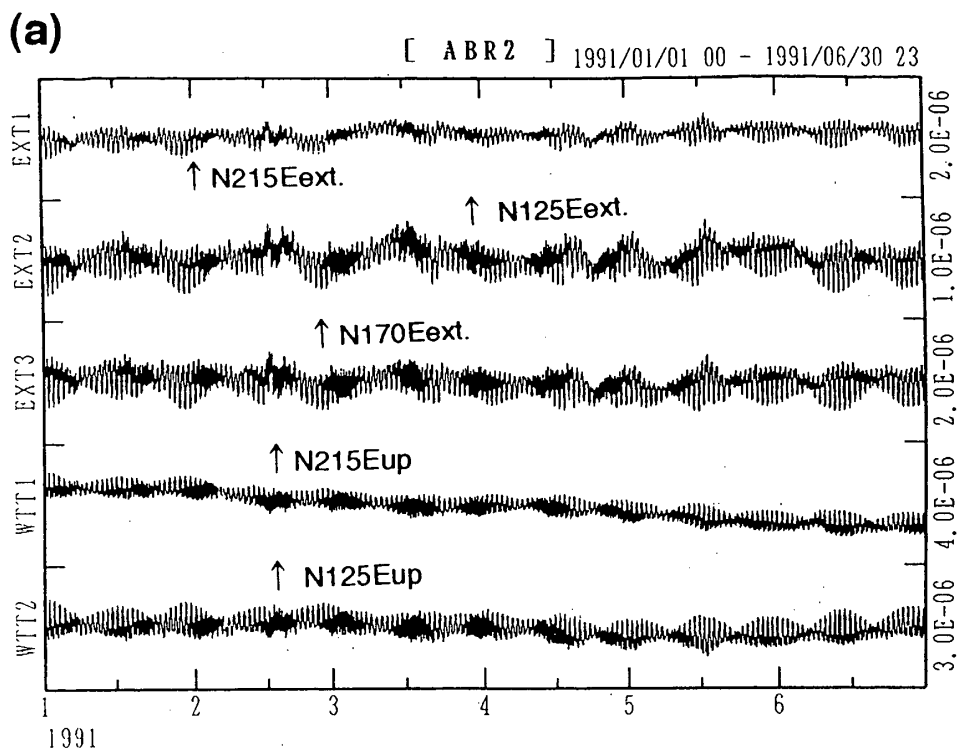
油壺地殻変動観測所

Aburatsubo Crustal Movement Observatory,
Earthquake Research Institute, The University of Tokyo

油壺地殻変動観測所では1949年より三浦半島の油壺において歪、傾斜の観測を行なってきた¹⁾。1976年に旧坑から約100m離れたところに新坑道が完成し、1978年から本格的に観測が開始された。第1図は最近2年間の歪、傾斜変化を示す。1992年11月のWTT2の変化は坑道近くにおいて建設工事が行なわれた時期と一致している。第2図は1978年から1992年までの歪、傾斜変化を示す。歪変化は3成分とも観測開始以来縮んでいる。自記水管傾斜計は2成分とも設置後の初期ドリフトと考えられる変化が約1年9ヵ月続き、その後安定している。第3図に観測点の位置を示す。第4図は自記水管傾斜計と同じ台石上に設置されている読み取り式水管傾斜計のデータと自記水管傾斜計のデータの比較である。経年変化の振幅は自記水管傾斜計のデータの方が大きいですが、経年変化は両者で対応している。

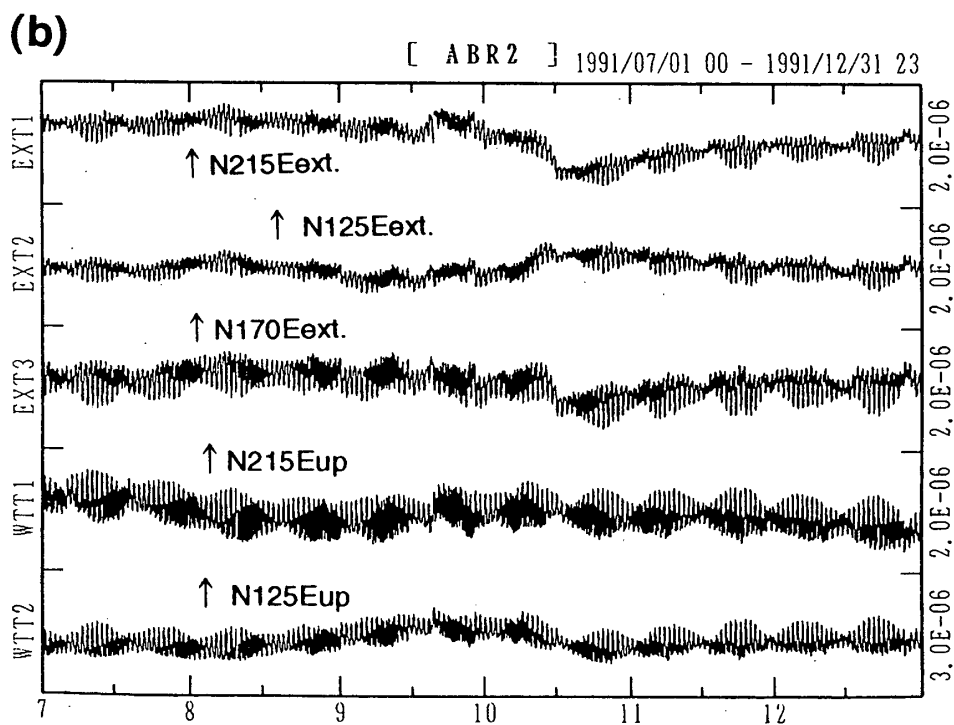
参 考 文 献

- 1) 高橋辰利, 柳澤道夫, 油壺地殻変動観測所における観測-旧坑における観測 (1949~1981年), 地震研彙報, 66 (1991), 259-284.



(a)1991年1月～1991年6月 (時平均値)。

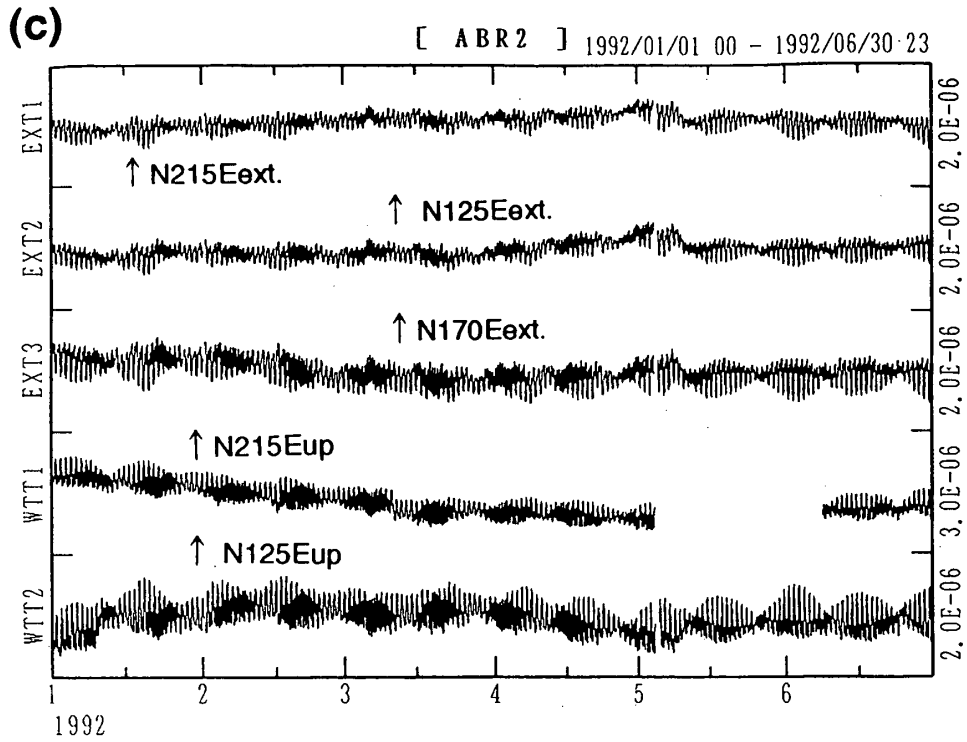
(a) January, 1991 - June, 1991.



(b)1991年7月～1991年12月 (時平均値)

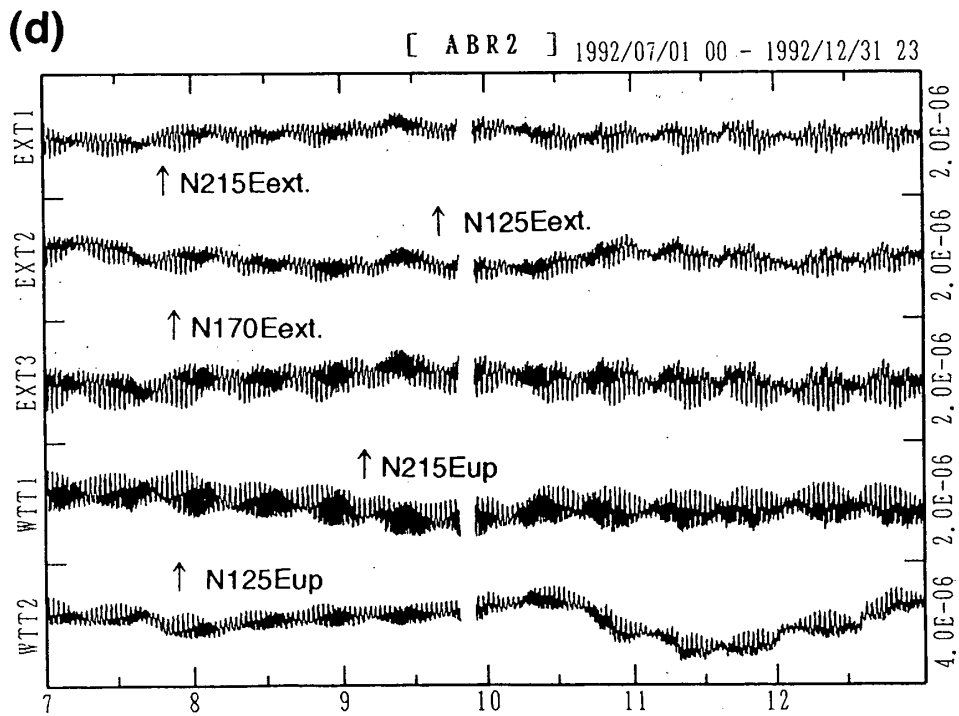
(b) July, 1991 - December, 1991.

第1図 伸縮計・傾斜計による観測データ
Fig.1 Observed hourly data of strain and tilt.



(c) 1992年1月～1992年6月 (時平均値)。

(c) January, 1992 - June, 1992.

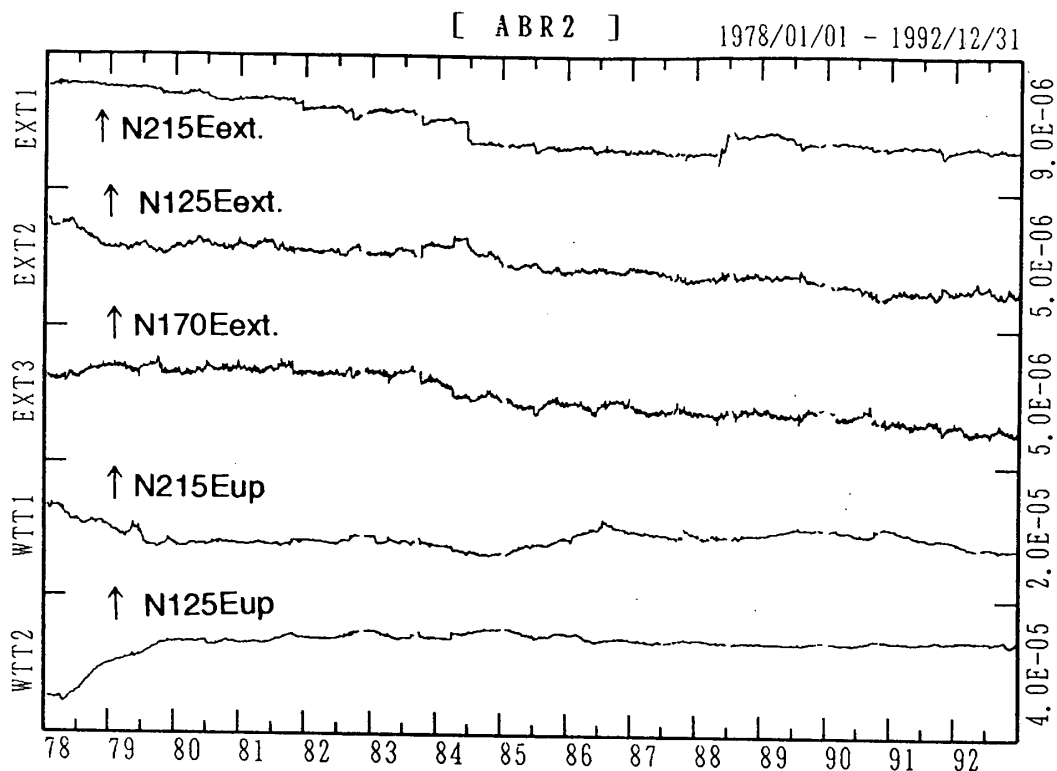


(d) 1992年7月～1992年12月 (時平均値)。

(d) July, 1992 - December, 1992.

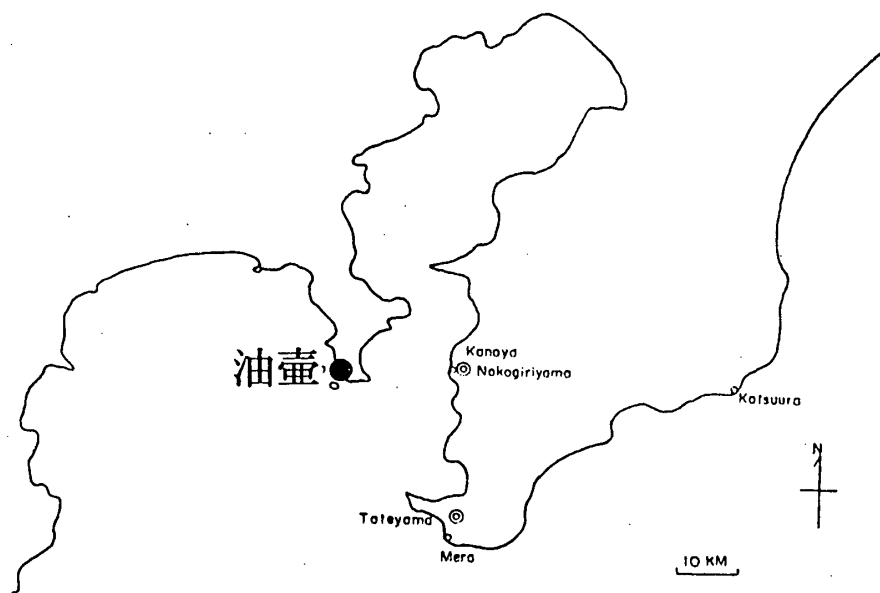
第1図 つづき

Fig.1 (Continued)



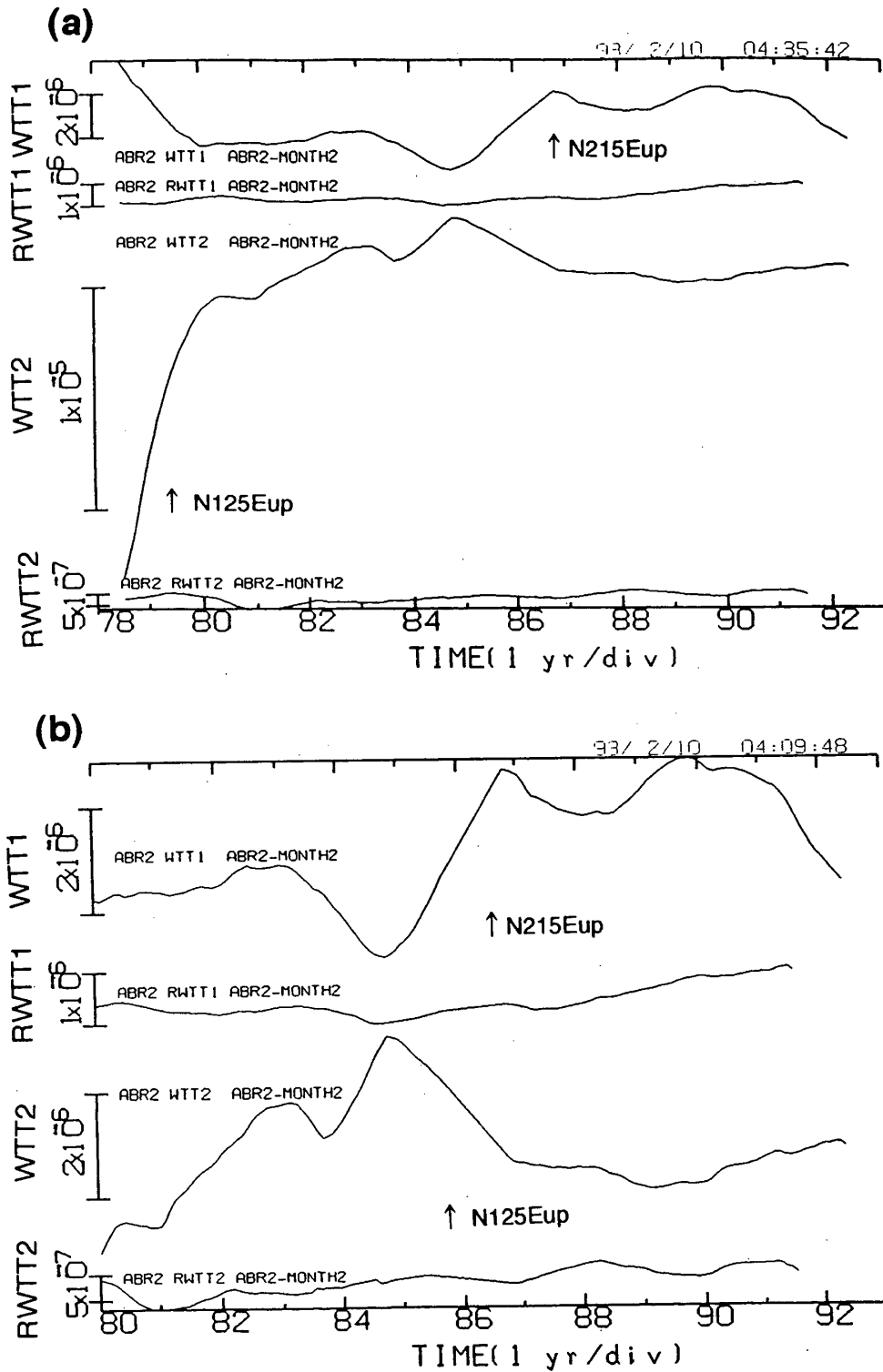
第 2 図 伸縮計・傾斜計による観測データ 1978年1月～1992年12月（日平均值）

Fig.2 Observed daily data of strain and tilt from January, 1978 to December, 1992.



第 3 図 観測点位置図

Fig.3 Location of Observatory.



第4図 読み取り式水管傾斜計と自記水管傾斜計のデータの比較 (a)1978年1月～1992年12月。(月平均値, 13ヵ月の移動平均を行なっている。)(b)1980年1月～1992年12月(月平均値, 13ヵ月の移動平均を行なっている。)

Fig.4 Comparison monthly data observed by float-type water-tube tiltmeter with those observed by reading-type water-tube tiltmeter. Moving average is taken to tilt data whose width is 13 months.